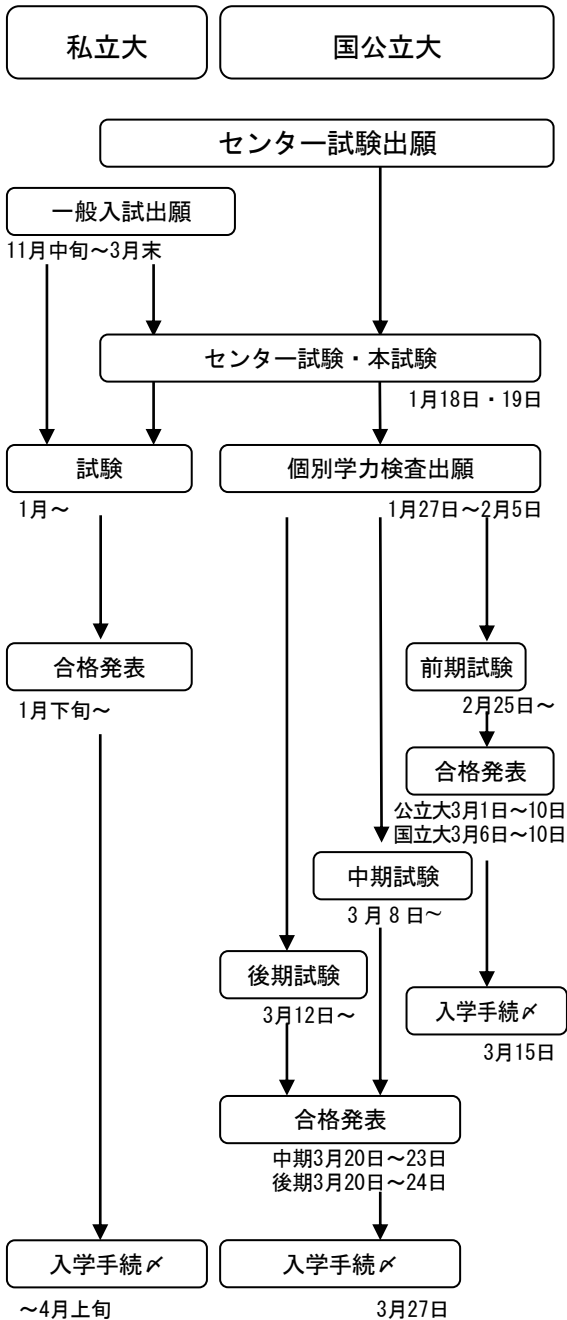


国公立大・私立大の入試本番に向けて

●入試スケジュール（2020年度入試）●



上記のスケジュールからも明らかなように、2月以降は大変ハードな日程になります。体調管理や受験計画などについて、少ない時間の中で話し合うことが必要になります。

国公立大個別学力検査について

～最後まであきらめないことが合格につながる～

一般入試の場合、国際教養大など一部の大学を除くと「前期日程」「後期日程」「中期日程」の組み合わせで最大3校の受験が可能です。しかし、前期日程で合格し、入学手続きを取ると、他の中・後期日程を受験していても合格対象にはならないため、第1志望校は前期日程で受験することが一般的です。

後期日程については、定員が少なく志願倍率が高くなる傾向にありますが、実際は前期日程合格者が受験しないことも多いので、合格のチャンスは決して小さくはありません。また、前期日程から後期日程の間は2週間以上もあり、弱点分野の克服なども可能です。

特に国公立大を志望している場合は、私立大合格だけで安心せずに、最後まで国公立大をめざす雰囲気を整えることが重要です。最後まであきらめないことが希望進路実現への近道なのです。

私立大入試について

～情報収集が希望進路実現のカギ～

私立大については、2月以降に出願できたり、地方入試（学外試験）や方式別入試など、様々な入試のスタイルがあります。情報収集をこまめに行うことがお子さんの希望進路実現につながります。

いざというときに相談にのることができるよう私立大入試スタイルの主な例をご紹介します。

- 試験日自由選択制…同一学部・学科で、試験日を2日以上設定し、受験生の都合のよい日に受験できる制度。
- 方式別入試…同一学部・学科で、入試科目や配点などが異なる複数の選抜方法から選択して受験できる制度。
- 全学部統一入試…学部ごとの試験日のほかに、全学部の入試を同一日に一斉に行う制度。
- 地方入試（学外試験）…大学の所在地以外の地域に試験会場を設けて行われる入試。

最後に ～受験計画は親子での同意が必要です～

大学進学には経済的な負担も伴います。受験料のほかに、交通費・宿泊費などが発生しますし、合格が決まれば入学金や授業料、場合によっては下宿費用、私立大では一時金などの支払いについても考えなければなりません。そのため、「どんな大学を、何校受験するのか」といった受験計画については、親子で十分話し合い、同意を得ておく必要があります。